



金星の奇妙な世界

この頃、夕方の西空に燦然と輝く金星は、実はとても変わった惑星です。厚い雲に覆われていて、表面を直接望遠鏡で見ることにはできません。そのため、金星本体がどのように自転しているのなかなか分かりませんでした。火星や木星は17世紀には、それぞれ24時間半と9時間55分程で自転していることが分かっていました。しかし、金星の自転周期が正確に測られたのは、1960年代になってのことです。



金星の自転と公転の関係

雲を貫くレーダー観測で得られた金星の自転周期はなんと243日。しかも公転と逆向きに回っていました。これはとても奇妙なことです。自転軸がひっくり返ってしまったと解釈できますが、金星の自転軸の方向（北極と定義します）はりゅう座にあり、これ自体は太陽系内では普通です。金星の公転周期は225日ですから、金星表面に立つと奇妙さが際立ちます。

金星から見る太陽は、225日の公転に243日の自転が加わった速さで天球を動きます。そのため、太陽に対する自転周期は119日となります。つまり、金星は、58日間昼が続き、58日間は夜が続く世界です。しかも太陽は西の地平線から昇り、東の地平線に沈みます。（金星の上空は厚い雲で覆われていますので、太陽を直接見ることはできませんが。）そこに、金星を4日で1周する強烈な風（風速約100メートル/秒）が吹いています。

金星の自転についての謎はまだ解明されたというには、ほど遠く、「何かが衝突して自転の軸とスピードが大きく変化した」という説、「長い間の大気と金星本体との間で運動エネルギーのやり取りが続いた結果、現在の状態に落ち着いた」という説等がありますが、どれも決定版ではありません。この謎を解くのはあなたかも知れません。